

5.5 ソフト対策

◎ 過去の災害に学ぶ

長野県砂防課のホームページでは、貴重な資料の保存・活用を図り、「過去の災害に学ぶページ」を設けています。このページでは、過去の災害、伝承、地名等に関する資料の情報や、「災害伝承カレンダー」、「災害伝承カード」など様々なコンテンツをご紹介します。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/sabo/manabu/manabu.html>)

また、長野県では防災教育の一環として、砂防ボランティアの皆さんを「赤牛先生」として防災教育を実施する公民館などへ派遣する事業を行っています。



過去の災害に学ぶページのトップ画像には、長野県立歴史館と長野県建設部砂防課の共同の取り組みとして、歴史館所蔵の「長野県明治初期の村絵図」の一部を活用しています。

地図には、過去に起こった崩壊や土石流、河川の洪水などの痕跡を、表現しているものもあります。またその土地を利用する上で、そこに住んだり耕作したりするために人々が受けてきた制約や、気をつけて避けてきた土砂移動などについて、想像させるものも少なくありません。そのような地図から、土砂災害を避けるための知恵を皆さんと一緒に読み解いて参りたいと思います。



◎ 災害伝承カレンダー

災害の記憶を、生活に身近な石碑、祀（祭）り、伝説などに託して後世に伝える「災害伝承」の営みは、古くから生活の知恵として行われてきました。将来にわたって災害による被害を減らすことができるよう、これら先人の知恵を広く伝えることを目的にカレンダーを作成しています。

◎ 災害伝承カード

県内各地に残る災害の伝承にかかる地形や遺構、石碑等のデータを集めて「災害伝承カード」を作りました。

現地を巡って見て感じて、それらが伝える先人たちの教訓を災害の備えに活かしましょう。

◎ 防災教育講座【赤牛先生派遣】

災害の激甚化に伴い、住民の命を守るための警戒避難体制強化が課題となっています。

長野県では、地域防災力を向上し、土砂災害・水害を「我が事として捉える防災意識」の醸成を目的に、砂防ボランティアの皆さんを”赤牛”先生（※）として防災教育を実施する公民館などへ派遣する事業を行っています。



（※）赤牛先生…各地に語り継がれる「赤牛伝説」は、その地域特有の災害への忠告であるとの学術論文を参考に、防災教育の講師を”赤牛先生”と呼んでいます。

（長野県立歴史館 笹本正治特別館長の論文（笹本，2017）参照）

◎ 梓川・高瀬川流域の自然災害伝承碑等

国土地理院では、自然災害伝承碑に関する取組みを行っています。

我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、昔から数多くの自然災害に見舞われてきました。そして被害を受けるたびに、わたしたちの先人はそのときの様子や教訓を石碑やモニュメントに刻み、後世の私たちに遺してくれました。しかし、水害を伝える石碑があったものの、「石碑があるのは知っていたが関心を持って碑文を読んでいなかった。水害について深く考えた事は無かった。」という住民の声が聞かれるなど、これら自然災害伝承碑に遺された過去からの貴重なメッセージが十分に活かされているとは言えません。

これを踏まえ国土地理院では、災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、これら自然災害伝承碑の情報を地形図等に掲載することにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切に伝え、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指しています。

また、自然災害伝承碑以外にも、自然災害に関わる遺構（河川・砂防施設の竣工記念碑など）もまた、災害の歴史を知る手がかりとなっています。

梓川・高瀬川流域においても土砂災害伝承碑等は各地に残されており、私達に過去の土砂災害の歴史を伝えてくれています。

「地理院地図」で「自然災害伝承碑」を確認すると、多くの自然災害伝承碑が長野県内に掲載されています。しかし、梓川・高瀬川流域では、朝日村大字古見で昭和8年（1933）3月16日に発生した雪崩災害のみです。今後、梓川・高瀬川流域でも多くの「自然災害伝承碑」が「地理院地図」に掲載されることが期待されます（姫川流域には多くの伝承碑が掲載されています）。

表 5.2 梓川・高瀬川流域の主な自然災害伝承碑等

位置 番号	梓川・高瀬川流域の主な自然災害伝承碑	緯度・経度	写真掲載 ページ
①	猫塚（大町市）	36.551333, 137.805226	p.87
②	ばんごんさま（大町市）	36.511157, 137.823112	p.113
③	浅間温泉の供養塔（松本市）	36.262562, 137.991484	p.76
④	為水流逆死者の碑（松本市）	36.231557, 137.962521	p.113
⑤	殉職の碑（松本市）	36.243161, 137.919048	p.113
⑥	下新北の観世音菩薩像（松本市）	36.227312, 137.922072	p.113
⑦	蛇の宮（松本市）	36.205986, 137.862172	p.55
⑧	殉職の碑（山形村）	36.151689, 137.858173	p.21
⑨	昭和二十年十月九日水害遭難之地の碑（松本市）	36.183186, 137.792995	p.45
⑩	中ノ湯の水蒸気爆発の慰霊碑（松本市）	36.208372, 137.604735	p.21
⑪	完成記念碑 寄合度流路工（松本市）	36.056108, 137.686651	p.51
⑫	水防の石（松本市）	36.053047, 137.688575	p.51

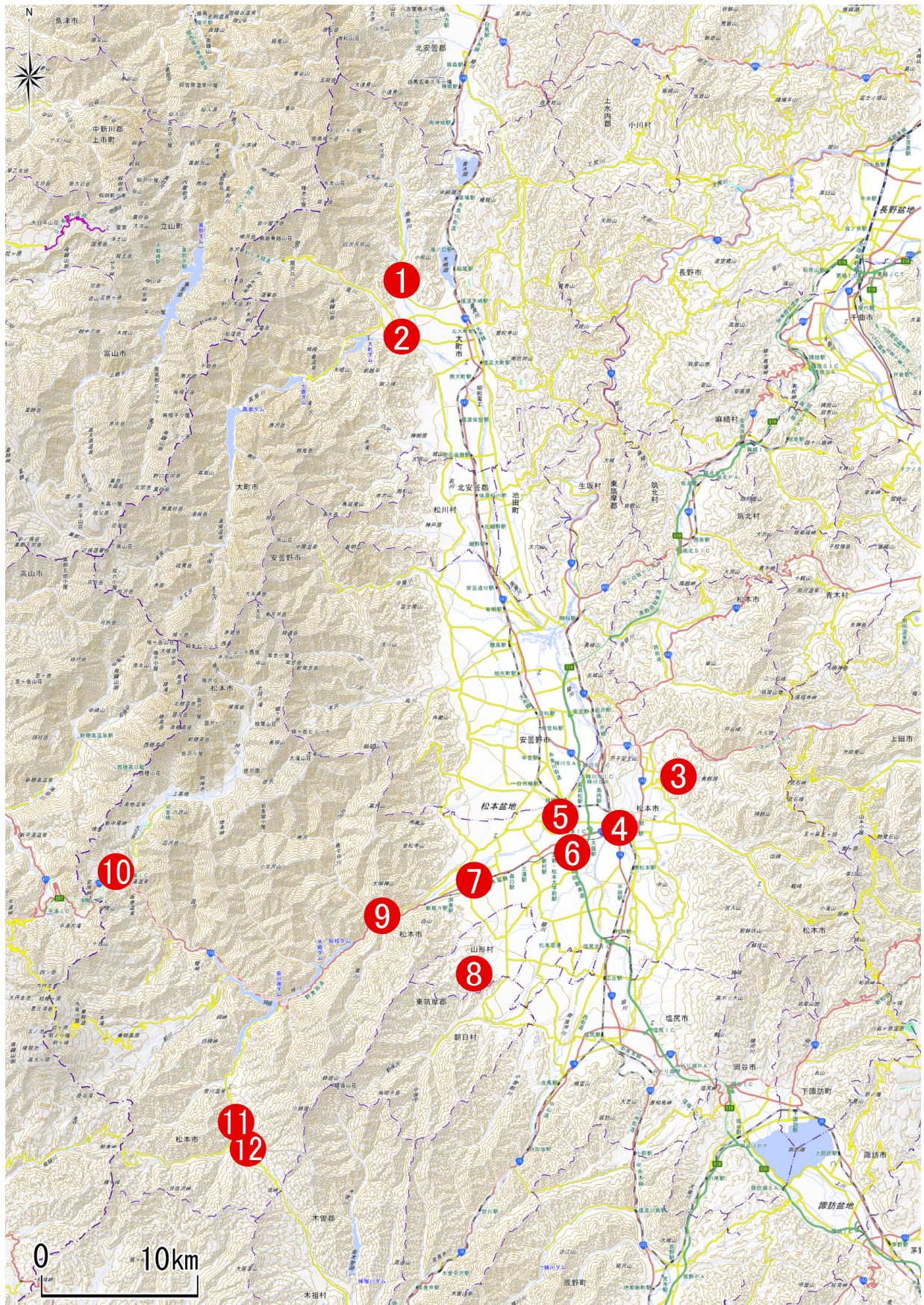


図 5.4 自然災害伝承碑の位置図（地理院地図「標準地図」に加筆）

※図中の番号①～⑫は、表 5.2 の位置番号と対応



写真 5.20 ② bongon-sama, 2024 年撮影
昔、高瀬川に大水が出て、大町市の久保は大きな被害を受けそうでした。この時、久保の村人が飼っていた牛を神様に捧げ、神様に祈りました。するとすぐに川の流れが変わり、災害を免れることができました。そこで村では牛の霊を神さまとして祀りました。これが、bongon-samaです。



写真 5.21 ④ 為水流逆死者, 2024 年撮影
松本市の田川地区は江戸時代以降の資料を見ても、数年毎に大きな洪水にみまわれており、その度に大きな被害を受けていました。
そのような洪水が再び起こらないことを祈願するとともに、犠牲者の御霊の供養のため、この碑が安置されました。



写真 5.22 ⑤ 殉職之碑 (松本市), 2024 年撮影
昭和 21 年 5 月、降雨により梓川が増水しました。松本市島内の高松では堤防が決壊し、水防作業中だった 3 人の方が亡くなられてしまいました。亡くなった 3 人の方の供養のため、この碑が建立されました。

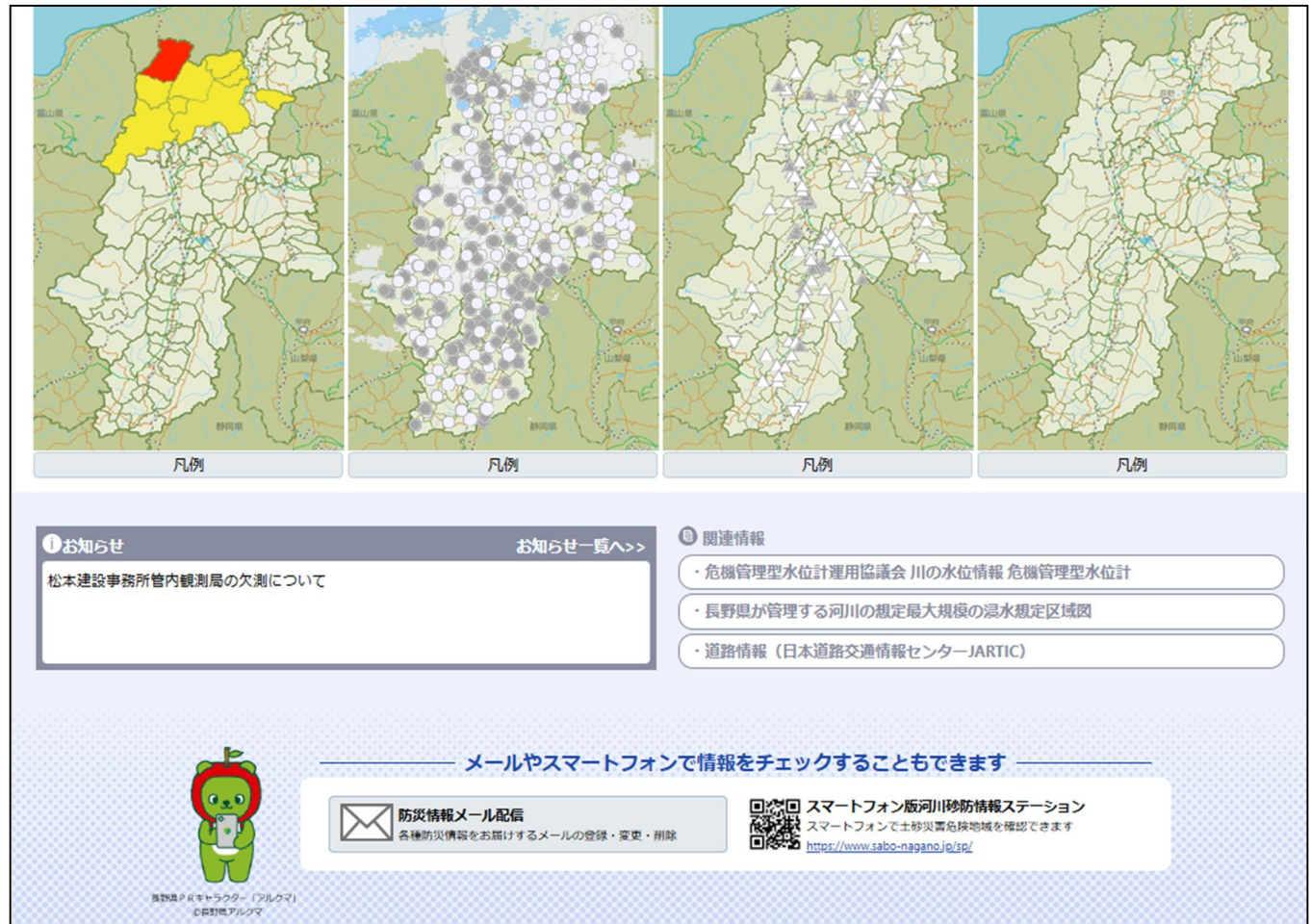


写真 5.23 ⑥ 下新北の観世音菩薩像, 2024 年撮影
「下新北の観音様」として親しまれてきた聖観音浮き彫り像は、江戸時代中期、宝暦七年（1757）の建立で、橋供養仏として建立されたものと言われています。
この観音様の像が祀られている松本市新村の傍を流れる梓川では、2.1 項でも説明した「トバタ崩れ」のような、大きな被害を発生させた水害が起きています。

◎ 長野県河川砂防情報ステーション

気象警報・注意報や雨量情報、水位情報、土砂災害危険度などの防災情報をインターネット上で公開しています。長野県ホームページから「河川砂防情報ステーション」をご覧ください。

(<https://www.sabo-nagano.jp/dps/>)



◎ 防災情報メール

大雨・洪水・大雪の注意報と警報、土砂災害警戒情報、地震（震度4以上）の情報をメール配信しています。

長野県河川砂防情報ステーションから防災情報メール配信の登録を行えます。

また、右記 QR コードからも送信先アドレスが取得できます

